

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県角田市

3 地域再生計画の区域

宮城県角田市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

国勢調査の結果から、昭和50年以降増加傾向にあった本市の総人口は、平成2年の35,431人をピークに減少に転じ、平成27年には30,180人にまで減少し、人口減少が加速度的に進んでいる（角田市内の中山間地域である西根地区における平成31年3月31日現在の人口減少率：▲3.41%は、角田市全体における人口減少率：▲1.65%より2倍以上減少率が高く、中山間地域の人口減少は顕著となっている。）。この人口減少は、少子高齢化による出生数の減少と死亡数の増加による自然減と、大学等への進学や就職等を理由として「15歳～19歳が20歳～24歳になるとき」の大幅な転出超過（1995年～2000年：▲475人、2000年～2005年：▲364人、2005年～2010年：▲390人、2010年～2015年：▲292人）による社会減が主な要因となっており、これらの人口減少や少子高齢化の進展によって、地域の経済活動の衰退や伝統的な行事・イベントの消滅など、地域の活力が低下していくことが懸念される。

市内商店街では、経営者の高齢化及び後継者不足と経営不振などで廃業する店舗が増加（事業所数 2012年：1,246、2014年：1233、2016年：1,186）し、商店街の魅力が低下するとともに、消費人口の減少に伴う売上全体の減少、インターネット販売等の物品売買の多様化、車社会の進展など、社会構造の変化

が地域経済に大きく影響している。また、少子高齢化の進展とともに、事業所数、従業者数、商品販売額の減少が続いており、今後もこの傾向が続くことが懸念される。

観光については、年間を通して各種イベント等を実施し、交流人口等の増加に寄与しているものの、賑わいの交流拠点（道の駅）、街なか交流拠点（郷土資料館、本町パーク）、芸術文化拠点（かくだ田園ホール）、観光施設（高蔵寺、旧佐藤家住宅等）などにうまく観光客を誘導する仕組みが構築されておらず、賑わいが一時的、局所的になってしまっている。これらの点在する観光資源を線で繋ぎ、観光客により長く角田市に滞留してもらう仕組みづくりを行い、賑わいの創出に結びつけていくことが今後の課題となる。また、平成30年8月に設立した『柁まちづくり角田』は、道の駅かくだの管理運営や農畜産物の販売にとどまることなく、地域を俯瞰し、地域資源を繋ぎ活用しつつ、地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として成長していく必要があり、そのためのプログラム構築が課題となる。

県内で1・2を争う規模の総合スポーツ施設『かくだスポーツビレッジ』は、年間約25万人を超える利用者で賑わっており、隣接する道の駅かくだの集客への影響は非常に大きい。そのため、かくだスポーツビレッジと道の駅かくだとの連携事業をさらに、深化・高度化して展開していくことが今後の重要な課題である。特に道の駅かくだにとって、平日の集客が課題となるが、かくだスポーツビレッジの来場者の多くは、土日開催される各種大会やイベント等への参加によるものであり、また、かくだスポーツビレッジにおける平日のソフト事業は十分でなく、平日の集客も期待できる幼児（未就学児）の遊び場がほとんどない状況であり、これらをどのように改善するかも重要な課題である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本市には、平泉の中尊寺金色堂とともに東北三大阿弥陀堂と言われる国指定重要文化財である「高蔵寺阿弥陀堂」、戦国時代随一の筆まめ武将と言われた伊達政宗公からその息女「牟宇姫」に宛てた手紙が329通もあったとされる手

紙を保存・展示している角田市郷土資料館及び世界最大の試験設備を持ちロケットエンジンの開発研究を進める「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）角田宇宙センター」など歴史と宇宙ロマンを感じさせる特有の地域資源を有しており、個々に地域資源としての価値は高く、魅力を秘めているものの、観光客の入込客数は年間22万人（平成29年宮城県観光統計。県内35市町村中33位）と伸び悩んでいる。その要因としては、各地域資源が市内各地に点在しているため、アクセスの問題があり集客が局所的になっていることや、付加価値化によるブランド力が不足していることなどが挙げられる。また、本市を代表する「米」、「豆」、「梅」をはじめとする農産物や産地を活かした特産品等とのコラボレーションが十分に図られていないこともあり、情報発信力が弱く、SNS等を活用した情報発信が進んでいないのが現状である。

平成31年4月19日にオープンした「道の駅かくだ」は、前身事業において商品開発等を進めてきた成果もあり、当初の予測を上回る集客があり、角田市の「賑わいの拠点」及び地域のマーケティングの拠点として重要な存在であり、その賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させ、市内への滞在時間の長期化を図り、地域経済の活性化に繋げる必要がある。

これまでブランド化を進めてきた地場産品『角田の5つのめ（こめ（米）・まめ（豆）・うめ（梅）・ゆめ（夢）・ひめ（牟宇姫）』の6次産業化を通じた地域産業の振興に関する仕組みづくりについては、前身事業において一定程度整備が図られたところであり、今後も「道の駅かくだ」が持つ地域のマーケティング拠点としての魅力をよりブラッシュアップし、恒常的な集客力を高めていくことが重要である。

今回からの新たな取組みとして「道の駅かくだ」を発着点としたグリーンツーリズム（秘伝豆もぎ取り体験、果物狩り体験等）、スポーツツーリズム（ウォーキング教室、サイクルツーリズム等）及び角田の5つのめを象徴する地域資源（こめ：田んぼアート、まめ：ずんだ祭り、うめ：梅まつり、ゆめ：JAXA施設、ひめ：郷土資料館）等を繋ぐ観光地周遊ツアー等を含む体験型観光事業を展開することにより、「道の駅かくだ」自身の魅力を向上させる取組が重要となる。

また、「道の駅かくだ」を起点とし、総合スポーツ拠点の「かくだスポーツビレッジ」、街なか交流拠点の「郷土資料館、本町パーク」、芸術文化拠点の「かくだ田園ホール」などの各地域資源と連携したイベント開催等の取組（それぞれのイベントのテーマや開催時期を合わせたり、新たな合同イベント実施等）により、それぞれの施設への来訪者を増やし、相互利用を増やすことで、道の駅の売上げ、かくだスポーツビレッジ、郷土資料館、かくだ田園ホール等の使用料収入等を増加させ、更に来訪者を市内に長時間滞在させることで、市内での飲食等による売り上げ増により、地域経済への波及効果を高める。

このことにより、現在の交流人口年間83万人を年間100万人（第5次長期総合計画の基本構想に掲げる目標）以上とすることを目指すとともに、「ヒト・モノ・カネ」を呼び込み、地場産業の活性化を図り、持続可能な地域社会の構築を目指すとともに、道の駅かくだが地域資源をフル活用した「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役に成長することで、そこに市民が集結し、交流人口拡大によるメリットを享受し、本市における観光の産業化が芽生えることになる。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2019年度増加分 1年目	2020年度増加分 2年目
道の駅かくだ売上高（千円／年）	0	270,000	3,000
体験型観光メニュー利用者数（人）	0	370	640
かくだスポーツビレッジ利用者数（人）	252,967	2,033	10,000

2021年度増加分 3年目	K P I 増加分 の累計
6,000	279,000
930	1,940
20,000	32,033

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト

③ 事業の内容

○ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト

「道の駅かくだ」における賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させるため、次に掲げる「体験型かくだチャレンジ事業」及び「かくだ版スポーツツーリズム推進事業」に取り組む。

事業の実施にあたり、オープン後間もない「道の駅かくだ」の管理運営会社である『株まちづくり角田』が単独で新たな事業に着手することの難しさを考慮し、かつ、多角的な意見の集約を行った上で調査・研究を行い、より実効性のある事業を展開していくために、市民及び関係団体（『株まちづくり角田』を含む。）等で構成する『Challenge Million 市民会議』（以下「市民会議」という。）を創設し、市民会議が体験型観光プログラム、かくだ版スポーツツーリズム等を構築するとともに、今後当該事業の実施主体となる『株まちづくり角田』に対し、事業の提案及びサポートを行う。

当該体験型観光プログラム等は、『株まちづくり角田』が実施主体となり、道の駅かくだを賑わいの交流拠点としての機能を強化しつつ、かくだスポーツビレッジの利用者の増を図るだけでなく、市内に点在する

観光地を結びつけ、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出するものであり、体験型観光プログラムの発着点を道の駅とすることで道の駅かくだの利用者の増にも繋げていく。

1 体験型かくだチャレンジ推進事業

道の駅をプラットフォームとする地域資源をフル活用した体験型観光を推進するため、体験型観光に係る計画策定、体制整備、システム構築を行う。

- (1) マーケティング調査、計画策定等
- (2) 観光アドバイザー等の招聘
- (3) 体験メニュー掘起し開発
- (4) サイクルツーリズム用レンタサイクル導入
- (5) 体験型イベント（グリーンツーリズム、サイクルツーリズム）運営、プロモーション
- (6) 観光周遊ルートの検討・策定
- (7) 観光周遊ツアー（モニターツアー）の実施

2 かくだ版スポーツツーリズム推進事業

かくだスポーツビレッジと道の駅かくだが、スポーツを通じて健康、子育て、まちづくり等をテーマに連携することで、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を目指す「かくだ版スポーツツーリズム」を推進するにあたり、道の駅かくだを拠点とした連携事業を展開するとともに、地域資源の一体的なPRを実施する。

- (1) 地域資源の一体的なPR（情報発信能力向上研修実施、道の駅とスポーツ施設の地域資源コラボPRの実施）
- (2) 健康づくり・賑わいの拠点化（ウォーキング拠点化イベント開催、大会等の誘致、人材育成支援）
- (3) 幼児向けの遊び場（スポーツをテーマとした幼児向けの遊具を設置した遊び場（「キッズスポーツエリア」（仮））を整備・道の駅と連携活用

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

㈱まちづくり角田の収益力の強化に伴う営業利益を次の再生活動へ充てる。

【官民協働】

Challenge Million 市民会議を中心に、行政、民間事業者、金融機関、農業団体、商工団体、スポーツ団体、大学、研究機関が産業分類の枠組みを超えた連携推進体制が整備されている。

【地域間連携】

「道の駅かくだ」は、当市のみならず周辺地域全体のゲートウェイとなることから、近隣市町の観光産業、スポーツ振興などと連携して取り組むことにより、その効果を最大限に発揮することができる。

道の駅を結ぶネットワークの構築や周辺地域を巡る周遊ルートの構築により、地域間の連帯意識が生まれ道の駅の機能と魅力が一層高まる。

【政策間連携】

「道の駅かくだ」を核に「歴史」、「スポーツ（健康）」、「宇宙」、「農村」を角田観光の4本柱に据え、「観る・体験する・食べる・買う」の体験型観光のパッケージ化によるニューツーリズムの展開を図ることで、交流人口や移住・定住人口の拡大、地域産業の振興に一体的に取り組む。

「道の駅かくだ」と各地域資源（かくだスポーツビレッジ等）との連携した取組は、新たな交流の流れをつくり、集客力の向上に伴う交流人口の増加だけでなく、地域の活力向上や経済活性化も図る。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において、地方創生推進交付金実施計画に掲げるK P I の達成状況等を検証し、その要因等を分析の上、事業内容、K P I 等の見直しを行う。

【外部組織の参画者】

東北学院大学教授、宮城県大河原地方振興事務所地方振興部長、(株)七十七銀行角田支店支店長、(株)ケーヒン宮城オフィス管理本部総務部宮城総務課課長、角田市医師会代表、みやぎ仙南農業協同組合角田地区事業本部長等、15名

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに角田市HPで公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】
総事業費 56,010千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和4年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

○道の駅管理運営事業

ア 事業概要：前身事業から取り組んできた農産物等の6次産業化及び商品開発を道の駅かくだの地域振興機能施設を活用して道の駅の独自事業として継続するもの。

イ 実施主体：宮城県角田市

ウ 事業実施期間：令和元年４月１日から令和４年３月３１日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から令和４年３月３１日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。